



事務部長 おおの ひろゆき 大野 博敬

赤十字と言えば災害救護医療

東京浜松町から本家浜松市へ

今年の4月に東京都港区浜松町の日赤本社から赴任した事務部長の大野博敬(写真は赤十字の救護服)です。どうぞよろしくお願いいたします。

東京の浜松町は山の手線の駅でもあり、都民にはおなじみの地名ですが、名前のいわれは遠州浜松出身の権兵衛さんが名主であったことによるそうです。

こちらに来るまでは、全国92か所の赤十字病院の運営調整業務を行っていましたので、赤十字の病院の特色の一つである災害対応能力について説明いたします。

疲れきった医療スタッフをオール赤十字で支援

昨年3月の東日本大震災の時には、宮城県石巻市にある石巻赤十字病院が津波被害の中、市内に唯一残った病院として奮闘する姿は多く人の心にとまりました。

私も発災当初から現地に入りましたが、災害時の病院には通常の数倍の患者さんが集まります。医療スタッフが連続診療の激務に対応できる期間は限られており、不眠不休の職員のための交代要員の確保が必要です。病

院の患者さんは、被災者だけではなく、平常時からの通院・入院の方も多いため、被災者対応の診療科だけでなく、産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科等を含めた総合的な診療体制を維持しなくてはなりません。

他の病院では、交代職員の確保が困難なところですが、全国の赤十字病院には医師、看護師をはじめ、6万人を超える職員がおりますので、疲弊した石巻病院に対して、半年間以上にわたり応援要員の派遣を続けることができました。

災害に強い浜松赤十字病院

南海トラフの問題をはじめ震災関係の話題はつきませんが、静岡県西部での震災を想定した場合、当院は、災害に強い道路、新東名の浜松浜北インターから約3.5kmの位置に立地し、建物は東日本大震災級の地震にも耐えられる免震構造、自家発電機、地下水浄水システム、災害時でも離発着できる地上ヘリポートを設置しています。

病床数は312床と中規模ですが、前述のとおり、全国の赤十字病院からの応援要員により大規模病院にまったく引けをとらない長期間にわたった災害診療体制が継続できます。

職員も定期的に災害救護訓練を実施しており、みなさんの期待にたがわぬよう、これからも万全の準備を進めてまいります。

病院探険

CTとMRIの違いについて

CTとMRI 比較一覧表

	CT	MRI
撮影原理	X線の吸収	磁気の共鳴
放射線被爆	あり	なし
画像	X線フィルム同様、骨は白く、空気は黒くみえる	骨も空気も無信号となり、区別されない
撮影時間	短い(5~15分)	長い(30分~1時間程度)
検査音	中	大(工事現場のような音)
特化部位	脳・肺・腹部・骨・心臓	脳・脊髄・関節・骨盤腔内臓器
頭蓋骨内病変	頭部外傷・脳出血・くも膜下出血	早期の脳梗塞・脳ドッグ
体内に金属がある方	対応可能	ペースメーカー等が入っている方は撮影できない
閉所恐怖症のある方	対応可能	対応しづらい

放射線科の検査機器である「CT」と「MRI」、どちらも似た名前で、同じような機械だけど、何が違うのでしょうか?



64列マルチスライスCT

このように、「CT」と「MRI」にはそれぞれ特徴があり、患者さんの身体状況に応じて、診断や治療に必要な情報を得るために検査を行っています。



1.5テスラMRI

レントゲンの日(11月8日)

1895(明治28)年11月8日、ドイツの物理学者レントゲンがX線を発見し、報告しました。真空管に高電圧をかけて実験していたときに、真空管の外に置かれた蛍光紙が明るく光ることに気がしました。透過性のあるこの光のことを、正体不明という意味で「X線」と名付けました。この功績により、1901年、第1回ノーベル物理学賞を受賞しました。



やさしい疾患手帳

COPD(慢性閉塞性肺疾患)について

呼吸器内科部長 さとう まさき 佐藤 雅樹



Profile プロフィール

- 所属/呼吸器内科 ●役職/呼吸器内科部長
- 専門分野/呼吸器疾患一般、呼吸器感染症、喘息、COPD、肺癌
- 自己PR/わかりやすく丁寧な診療を心がけたいと思います。
- 趣味/読書、パソコン
- 好きな食べ物/中華料理、カレー

COPDとは、以前は肺気腫や慢性気管支炎と言われていた病気のことです。日本語に訳すと慢性閉塞性肺疾患となります。COPDは別名たばこ病と言われ、原因の90%以上は喫煙です。たばこに含まれるたくさんの有害物質による刺激で気管支に炎症が起こり、ついには肺が破壊されることによって、呼吸がしにくくなります。

COPDの主な症状は、階段の上り下りなど体を動かしたときに息切れを感じたり、風邪でもないのにせきやたんが続いたりすることです。ありふれた症状であるため、見過ごしてしまいがちで、COPD発見の遅れにつながります。2001年の調査で日本での患者数は530万人と予測されました。しかし、まだ多くの人がCOPDであるのに気づいていない、COPDであるのに受診していないのではないかと推定されています。COPDが進行すると少し動いただけでも息切れし、日常生活もままらなくなります。さらに進行すると呼吸不全や心不全を起す命に関わる病気です

ので早期発見、早期治療が重要です。体動時の息切れ、慢性のせきやたん、喘鳴(ゼーゼー、ヒューヒューがある)のある方は、年のせいだからと軽く考えず早めに呼吸器専門医にご相談ください。

COPDの診断は、スパイロメーターという器械を使った呼吸機能検査によって行います。この検査では、肺活量と息を吐くときの空気の通りやすさを調べます。検査は呼吸器内科で受けられます。喫煙歴のある40歳以上の方は、ぜひ一度受けてください。

患者さんの声



障害者専用駐車場について

先般、「障害者駐車場に健常者の駐車があるので声かけしてください。車椅子用駐車場に車椅子の絵を書いて欲しい」とのご意見を頂戴しました。当院では、障害者駐車場に健常者が駐車した場合、声かけを実施しています。また、駐車場に運転者が車椅子の方専用であることを大きく表示しました。なお、同乗者が車椅子の方の場合、正面玄関前での乗り降りが可能です。その際はコンシェルジュが対応するのでご安心ください。



薬事功労者静岡県知事表彰を受賞

10月18日(木)、平成24年度薬事功労者表彰式において、当院 山田喜広 薬剤部長が静岡県知事表彰を受賞しました。今回の受賞は、多年にわたり、薬事衛生の普及や関係業界の指導育成に尽力し、保健衛生の向上に貢献してきた功績を讃えられたものです。

